

「大井町産業まつり」にて装備品（近SAM）を展示し広報



迷彩服を試着し近SAMの車内でポーズをとる子供たち



迷彩服を試着し近SAMの前で記念撮影する子供たち

神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 米田一陸尉）は、1月21日（日）、大井町総合体育館駐車場で開催された「第58回大井町産業まつり」において、駒門駐屯地に駐屯する第1高射特科大隊の支援を受け、93式近距離地对空誘導弾（近SAM）を展示するとともに、ブースを設置し広報を行った。

このイベントが実施される大井町の人口は、約1.7万人と決して多くはないが、毎年入隊者を輩出するなど募集目標達成に向け重要な町であり、平成28年度に幹部候補生として入隊した隊員は、現在陸自第1空挺団で日々鍛錬を積んでいる。

当日は晴天に恵まれ、普段目にするのできない装備品を見学しに多くの来場者で賑わった。家族連れは、チビッコ迷彩服を試着して装備品と記念撮影するなど、楽しんでいる様子だった。

近SAMや災害派遣のパネル展示を見た来場者は「自衛隊の車両を直接見られて興奮しました」「いつもお疲れ様です。頑張ってください」などと隊員に話しかけていた。

また、大井町長・間宮 恒行氏や隣の開成町長・府川裕一氏も直接ブースを訪れ、装備品などを見学するとともに、引き続きの自衛官募集に対する理解と協力を示され、隊員を激励した。

小田原地域事務所は、今後も地域と自衛隊の懸け橋として、こうした地域イベント等に積極的に参加し、地域との交流を通じて防衛基盤の拡充を図り、募集成果に繋がってきたいとしている。

中学生の職業体験学習を支援



初めての天幕展張に夢中で取り組む生徒たち



救急法に真剣に取り組む生徒たち

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原一陸尉）は、2月1日（木）、2日（金）の2日間、横浜市立芹が谷中学校の職業体験学習を支援した。当校は、毎年生徒自ら自衛隊での体験学習を希望し、今回は生徒12名が参加した。

1日目は、上大岡募集案内所で、自衛隊の仕事や役割などについて説明を受け、所長は生徒たちの質問にも分かりやすく答えていた。また、自衛隊を体験学習の場に残りたい理由を尋ねられた生徒は「先輩からとても楽しい所だと聞いて来ました」「公務員になりたい」などと答え、自衛隊の体験学習が先輩から後輩へと生徒たちにより受け継がれ、継続されて当校の伝統的行事になっていることが窺えた。

2日目は、陸上自衛隊武山駐屯地第117教育大隊にて、概要説明を受けた後、救急法や宿営用天幕設営などの体験学習を行なった。生徒たちは、初めての体験に夢中になって取り組み、天幕が建ちあがると早速中に入り「わぁ〜広い」「暖かい」などと声を上げ、自分たちで建てた満足感と野外天幕の大きさに感激している様子だった。

その後の体験喫食では「とても美味しい」と話し、笑顔を見せていた。

学習終了時には「先輩たちが言っていたように、本当に楽しかったです」「自衛隊の体験学習に参加してよかったです」などと感想を述べ、大変満足した様子だった。

上大岡募集案内所は「今後も学校と連携し、積極的かつ継続的に自衛隊をPRし、募集成果につなげていきたい」としている。



自分たちで設営した天幕の中で笑顔を見せる生徒たち



上大岡募集案内所長から概要説明を受ける生徒たち